

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピリなの花		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 28日		～ 2025年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 1月 28日		～ 2025年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムや活動内容が充実している。また、通う児童が様々な活動を行うことを楽しみにしている。	玩具にまかせた療育ではなく、きちんと日々の活動を計画し、1人ひとりの児童の姿を思い浮かべ、療育目的に合わせて支援を行っている。	社会参加の一環として、公共施設を利用するような活動は取り入れて行っているが、保育園やこども園などへ出向き、その児童と関わるような機会を設けることができていないため、今後は同法人のこども園と関わる機会を設けていきたい。
2	個性の高い療育サービスを行うようにしている。	小人数の児童に対して療育を行っているため、集団療育の中で埋もれてしまいがちな個別を配慮した療育サービスを提供することができる。	個性の強い療育サービスを提供できる反面、集団療育のサービスについては、集団療育を行う十分な機会をつくることができていない。これについては現在、併用事業所と分担し、それぞれの事業所の強みを活かし、当事業所だからこそできる療育に力を入れている。
3	家族との交流を積極的に行っている。	事業所への送り迎えをご家族にお願いしているため、送迎に関わるご家族の出入りがあり、ご家族には当事業所で過ごす児童の様子を見てもらったり、必要に応じて支援や療育の指導も行ったりするよう心掛けている。	家族同士の交流が広がるような環境や仕組みもつくってきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の構造的な療育の限界や、危険性がある。	療育の場に寄せてリフォームは行ったものの、もともと児童が通うためではなく、事務所主体の建物であったため、構造的な限界を感じている。特に、2階の部屋は、出入り口付近から階段が始まり、危険を感じている。	2階の部屋は、ドアを常時施錠し、児童が飛び出さないように配慮している。また、児童がつかずいて転落しないように、いつでも支えることができる立ち位置で、児童の行動を見守るよう配慮している。慣れから、危険意識が薄れないよう、定期的な確認と共有を図りたい。
2	立地的な災害のリスクがある。	南側には川があり、北側には山があり、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に含まれている。	様々な災害を想定し、それぞれの状況に応じたマニュアルを作成している。定期的な避難方法の確認や、避難訓練も行っている。マニュアルについては、指導訓練室に常備し、送迎で出入りする保護者様にも手にとってみてもらえるようにしている。しかしこのことが十分に周知されていないことが今回の評価で分かったため、定期的にお知らせしていきたい。
3	当事者中心の支援になっており、きょうだいを含めた家族まるごとの支援にまでサービスが行き届いていない	きょうだいを巻き込むような取り組み、機会をつくることができていなかった。	きょうだい参加できる家族懇談会や、行事、活動を企画していきたい。